

製品名: FAK マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM80852**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	ICC,ELISA,FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.03%アジ化ナトリウムを含む PBS。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	ICC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	119kDa

抗原情報

遺伝子名	FAK
別名	FAK; FADK; FAK1; FRNK; pp125FAK; PTK2
遺伝子 ID	5747.0
SwissProt ID	Q05397
免疫原	大腸菌で発現したヒト FAK の精製された組み換え断片。

背景

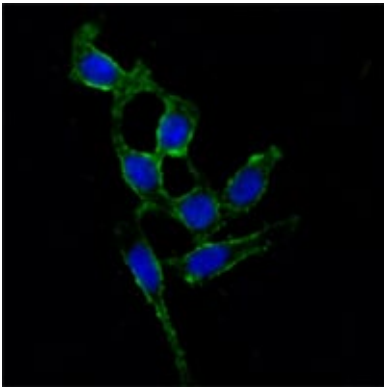
この遺伝子は細胞質タンパク質チロシンキナーゼをコードしており、細胞外マトリックス成分の存在下で増殖する細胞間に形成される接着斑に集中して存在します。コードされているタンパク質はタンパク質チロシンキナーゼの FAK サブファミリーに属しますが、

他のサブファミリーのキナーゼとの顕著な配列相同性は欠いています。この遺伝子の活性化は、特定の神経ペプチドまたは細胞と細胞外マトリックスとの相互作用に応答して誘導される細胞増殖および細胞内シグナル伝達経路の重要な初期段階である可能性があります。この遺伝子には、4つの異なるアイソフォームをコードする少なくとも4つの転写バリエーションが見つっていますが、そのうち全長の性質が決定されているのは2つだけです。組織特異性：試験した全ての臓器、リンパ系細胞株で発現しているが、脳で最も多く発現している。RD：接着斑キナーゼ1 (FAK) は、普遍的に発現する非受容体型タンパク質チロシンキナーゼであり、細胞外マトリックス成分の存在下で増殖する細胞間に形成される接着斑に集中している。この細胞局在は、

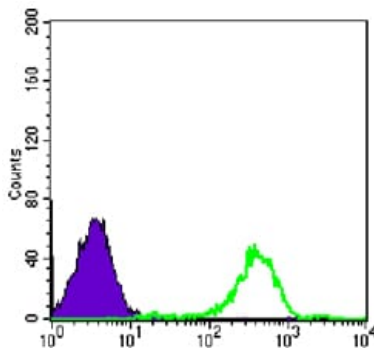
研究分野

PI3K-Aktシグナル伝達経路

画像データ



FAK マウス mAb (緑) を用いた A549 細胞の免疫蛍光染色。青：DRAQ5 蛍光 DNA 色素。



FAK マウス mAb (緑) とネガティブコントロール (紫) を使用した Raji 細胞のフローサイトメトリー分析。